

スコトヲ得ルノ件中左ノ通改正ス

昭和十八年八月十五日

海軍大臣 嶋田繁太郎

末尾ニ左ノ一號ヲ加フ

二十九、支那方面艦隊主計長

(内令提要卷一、四五〇ノ七頁参照)

内令第千六百八十五號

當分ノ間左ノ通人員ヲ臨時増置シ昭和十八年五月十五日ヨリ之ヲ適用ス

昭和十八年八月十五日

海軍大臣 嶋田繁太郎

軍令部

主計科佐尉官

滿洲國在勤帝國
大使館附武官附

一人

内令

一六九一

1862

内令

一六九二

内令第六百八十六號

昭和十七年内令第六百七十一號中「造船科、造機科、造兵科佐尉官 隊附 十六人」ヲ

「主計科尉官 隊附 二人
技術科佐尉官 隊附 十六人」ニ改ム

昭和十八年八月十五日

海軍大臣 嶋田繁太郎

参照 前記内令ハ見習尉官教育期間中青島方面特別根據地隊ニ人員臨時増置ノ件ナリ

内令第六百八十七號

昭和十六年内令第七百八號中左ノ通改正ス

昭和十八年八月十五日

海軍大臣 嶋田繁太郎

特務中少尉、兵曹長	附	一人	一人	一人	一人
機關特務中少尉、機關兵曹長	附	一人		二人	一人

ヲ

1863

参照 前記内令ハ大湊警備府等ノ人員臨時増減ノ件ナリ

中少尉(水)、兵曹長	附		一人	一人	一人	一人
中少尉(機)、機關兵曹長	附	一人		二人	一人	

ニ改ム

内令第六百八十八號

當分ノ間左ノ通人員ヲ臨時増置ス

昭和十八年八月十五日

海軍大臣 嶋田繁太郎

海軍水雷學校

兵科尉官 附 三人

兵曹、水兵 九人(掌水雷兵(高三))

機關兵曹、機關兵 九人(掌内火兵 普三)

内令

一六九三

1864

内令第千六百八十九號

當分ノ間左ノ通人員ヲ臨時増置ス

昭和十八年八月十五日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第百二海軍工作部

技術科 佐尉官

部員
副部員

二人(技師(臨時)ヲ以テ充ツルコトヲ得)

書記

附

臨時二人

技手

附

臨時二人

内令第千六百九十號

昭和十八年内令第八百二十五號中左ノ通改正ス

昭和十八年八月十五日

海軍大臣 嶋田繁太郎

大井海軍航空隊(上海分遣隊及青島分遣隊ノ職員ニ充ツベキモノ)ノ項ヲ左ノ如ク改ム

1865

内令

中少尉(飛)、飛行兵曹長 隊附兼教官 (教員)	中少尉(水)、兵曹長 隊附兼教官 (教員)		主計科尉官隊附	主計大尉分隊長	軍醫科尉官隊附	軍醫大尉分隊長	兵科尉官隊附兼教官	少佐、大尉 兼分隊長	中少佐 兼飛行隊長	大中佐分遣隊長	上海分遣隊	
	十八人	二人										一人
十八人	二人	一人	一人	一人	一人	一人	三人	六人	二人	一人	一人	青島分遣隊

一六九五

1866

内令
第九
號

内令

一六九八

内令第六百九十一號

昭和十九年八月十五日

當分ノ間電波探信儀裝備ノ艦船部隊ニハ左ノ通人員ヲ臨時増置ス

昭和十七年内令第二千七百七號ハ之ヲ廢止ス

昭和十八年八月十五日

海軍大臣 嶋田繁太郎

一 二式二號電波探信儀一組毎ニ戰艦、巡洋艦及航空母艦ニ在リテハ下士官、兵(掌電測兵又

ハ電波探信儀講習修了者)八人其ノ他ノ艦船又ハ特設艦船ニ在リテハ同六人

二 假稱二號電波探信儀二型一組毎ニ下士官、兵(掌電測兵又ハ電波探信儀講習修了者)四人但シ

潜水艦ニ在リテハ同二人

三 陸上部隊(特設見張所ヲ除ク)ニ在リテハ特設見張所定員表備考第四號ニ準ジ配員スルモノト

ス

參照 昭和十七年内令第二千七百七號ハ假稱電波探信儀裝備ノ艦船部隊ニ人員臨時増置ノ件ナリ

内令第六百九十二號

昭和十八年内令第六百五號中左ノ通改正ス

1869

昭和十八年八月十五日

海軍大臣 嶋田繁太郎

支那方面艦隊軍法會議ノ欄「二人」ヲ「三人」ニ、「六人」ヲ「十人」ニ改メ第一遣支艦隊軍法會議ノ欄ヲ削ル

参照 前記内令ハ東京軍法會議等ニ人員臨時増設ノ件ナリ

内令第六百九十三號

昭和十八年内令第三百九十一號中左ノ通改正ス

昭和十八年八月十五日

海軍大臣 嶋田繁太郎

「支那方面艦隊軍法會議」ヲ削リ末尾ニ左ノ如ク加フ
支那方面艦隊軍法會議

法務科佐尉官 法務官 三人

参照 前記内令ハ横須賀鎮守府軍法會議等ニ人員臨時増設ノ件

内令

一六九九

1870

内令

一七〇〇

内令第六百九十四號

昭和十八年内令第四百十八號中左ノ通改正ス

昭和十八年八月十五日


海軍大臣 嶋田繁太郎

「主計科尉官 部員 一人」ヲ「主計科尉官 部員 三人」ニ改メ末尾ニ左ノ如ク加フ

技 師 附 臨時一人

技 手 附 臨時三人

参照 前記内令ハ大湊海軍建築部ニ人員臨時増設ノ件ナリ

○正誤 

本年内令第千三百六十號別表中特設防備隊女川ノ項掌工兵舟艇ノ欄「〇」ハ「ニ」ノ誤

1871

内令
管
統

内令第千六百九十五號

昭和十八年内令第五百八十四號別表中左ノ通改正ス

昭和十八年八月十七日

海軍大臣 嶋田繁太郎

横須賀鎮守府ノ部横須賀防備隊ノ項驅潜特務艇ノ欄「第二十七號」ノ次ニ「第三十五號」ヲ加フ

参照 前記内令ハ特務艇ノ本籍及所屬ノ件ナリ

内令

一七〇一

1872

令
據

内令第六百九十六號

大正九年内令第二百七十三號敷設艇乘員標準等ノ件中左ノ通改正ス

昭和十八年八月十八日

海軍大臣 嶋田繁太郎

「魚雷艇乘員標準、」ノ下ニ「第一號準艇型内火艇乘員標準、」ヲ加フ
別表中魚雷艇乘員標準ノ次ニ別表ノ如ク加フ

(別表一葉添)

(内令提要卷一、四六五頁参照)

内令
據
要
登
載

内令第六百九十七號

特設海軍建築部令中左ノ通改正セラル

昭和十八年八月十八日

海軍大臣 嶋田繁太郎

題名ヲ左ノ如ク改ム

内令

一七〇三

1873

特設海軍施設部令

第一條、第三條及第十條中「特設海軍建築部」ヲ「特設海軍施設部」ニ改ム

第二條 特設海軍施設部ハ艦隊又ハ特設警備府ニ屬シ海軍大臣ノ定ムル所ニ依リ築城及一般施設ニ

關スル土木建築ノ實施竝ニ國有財産ニ關スルコトヲ掌ル

前項ノ外特設海軍施設部ハ必要ニ應ジ特設設警隊ノ補給ニ關スルコトヲ掌ル

第四條第一項中「特設海軍建築部」ヲ「特設海軍施設部」ニ改メ「部員」ノ次ニ「副部員」ヲ加フ

第九條中「部員」ノ下ニ「副部員」ヲ加フ

第十一條 特設海軍施設部ハ官廳又ハ民間ヨリ土木建築工事ノ實施若ハ實驗、其ノ指導又ハ其ノ技

術従事者ノ養成ノ依頼ヲ受ケタルトキハ第二條ノ規定ニ依ル業務ニ支障ナキ限り海軍大臣ノ定ム

ル所ニ依リ之ニ應ズルコトヲ得

(内令提要卷一、三八ノ一九頁参照)

内令提
要登載

内令第一千六百九十八號

特設海軍~~建築部~~處務規定左ノ通改正ス

内令提
要登載

昭和十八年八月十八日

海軍大臣 嶋田繁太郎

特設海軍施設部處務規程

海軍施設部處務規程第一條乃至第八條、第十條、第十一條及第十四條ノ規定ハ爲シ得ル限リ特設海軍施設部ニ之ヲ準用ス但シ課ノ區分ハ之ヲ行ハザルモノトス

(内令提要卷一、三八ノ二〇頁參照)

内令第六百九十九號

特設海軍航路部等ノ所管、所屬、名稱及所在地ノ件中左ノ通改正セララル

昭和十八年八月十八日

海軍大臣 嶋田繁太郎

「海軍建築部」ヲ「海軍施設部」ニ改ム

附則第三項中「海南海軍建築部長」ヲ「海南海軍施設部長」ニ改ム

(内令提要卷一、三八ノ三五頁參照)

内令

一七〇五

1875

内令提
要登載

内令提
要登載

内令

一七〇六

内令第七百號

昭和十五年内令第六百四十六號特設海軍工作部等ノ所掌區分等ノ件中左ノ通改正ス

昭和十八年八月十八日

海軍大臣 嶋田繁太郎

「海軍建築部」ヲ「海軍施設部」ニ、「建築及土工事」ヲ「築城施設及一般施設ニ關スル土木建築」ニ改ム

(内令提要卷一、三八ノ四一頁參照)

内令第七百一號

特設海軍航路部等ノ定員ノ件中左ノ通改正セラレ

昭和十八年八月十八日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第一項中「特設海軍建築部」ヲ「特設海軍施設部」ニ、別表第五及別表第七中「海軍建築部」ヲ「海軍施設部」ニ、別表第六中「海軍建築部」ヲ「海軍施設部」ニ、「海軍建築部長」ヲ「海軍施設部長」

1876

ニ改ム

(内令提要卷一、四五三頁参照)

内令第七百二號

海軍定員令申左ノ通改正セララル

昭和十八年八月十八日

海軍大臣 嶋田繁太郎

海軍建築部定員表其ノ一及其ノ二ヲ各別表ノ如ク改ム

海軍建築部定員表其ノ三ヲ削ル

第二十四表ノ七ヲ第二十四表ノ六トシ第二十四表ノ八ヲ第二十四表ノ七トス

(別表二葉添)

(内令提要卷一、二六五頁参照)

内令第七百三號

昭和十三年内令第五百二十號及昭和十四年内令第四百五十五號中「又ハ」ノ下ニ「築城施設及一般

内令

一七〇七

1877

内令

一七〇八

施設ニ關スル」ヲ加へ

「海軍

建築部」ヲ「海軍施設部」ニ、「土木建築ニ従事スル者」ヲ「築城施設及

部」

一般施設ニ關スル土木建築ノ事務ニ従事スル者」ニ改ム

昭和十五年内令第五百九十號中「海軍建築部」ヲ「海軍施設部」ニ改ム

昭和十八年八月十八日

海軍大臣 嶋田繁太郎

参照 昭和十三年内令第五百二十號及昭和十四年内令第四百五十五號ハ造船、造機、造兵又ハ土木建築ノ事務ニ従事ノ臨時職員配屬ノ件、昭和十五年内令第五百九十號ハ海軍理事官ノ配屬ノ件ナリ（内令提要卷一、四七六ノ二頁）

内令
提
登
載

内令第七百四號

海軍施設部工員養成所ニ關スル件左ノ通定メラル

昭和十八年八月十八日

海軍大臣 嶋田繁太郎

軍港ニ在ル海軍施設部ニ工員養成所ヲ置ク

1878

(別表)

第一號隼艇型丙火艇乗員標準

(昭和十八年内令第千六百九十六號)

備考	一	計	中	兵	水	機	掌砲兵 一 掌帆兵 一 掌内火兵 普一
	二		少尉	曹	兵	兵	
	本表乗員ハ所屬廳ノ定員ヲ以テ之ニ充ツ 中少尉ハ中少尉(水)、兵曹長又ハ兵曹ヲ以テ代フルコトヲ得						
		士官					
		下士官					
		兵					
			一人				
			二人				
			五人				
			一				
			二				
			二				
			三				

1879

海軍施設部定員表 共ノ二

(昭和十八年内令第七百二號)

考 備	計		技 書	部 員	醫 務 課 長	第 二 課 長	第 一 課 長	會 計 課 長	總 務 課 長	長	大 湊	鎮 海	高 雄
	判 任 文 官	仕 官、高 等 文 官											
一 必要ニ應ジ技師ニハ士官ヲ、士官ニハ技師ヲ以テ充ツルコトヲ得 二 技術科士官、技師又ハ技手ハ各施設部ヲ通ジテ彼此増減スルコトヲ得 三 本表ノ外必要ニ應ジ部員又ハ副部員トシテ各科士官又ハ技師ヲ置キ他ニ本職アル者ヲ以テ之ヲ兼務スルコトヲ得	六人	八人 内兼務二人	四 二	技 師	軍 醫 大 中 佐	技 術 大 中 佐	技 術 大 中 佐	主 計 大 中 佐	技 術 主 計 大 中 佐	兵 科、主 計 科 大 佐			
	六人	八人 内兼務二人	四 二		兼 務 一	兼 務 一							
	九人	九人 内兼務二人	六 三		兼 務 一	兼 務 一							

内令提
受登執

内令第七百五號

海軍施設部設營班規程左ノ通定ム

昭和十八年八月十八日

海軍大臣 嶋田繁太郎

海軍施設部設營班規程

- 第一條 大東亞戰爭中軍港ニ在ル海軍施設部ニ設營班ヲ置ク
- 第二條 海軍施設部設營班ハ當該鎮守府管區内ニ於ケル應急築城施設（航空基地及防備施設ノ應急造成）及其ノ他ノ應急土木建築工事並ニ施設部直營工事及實驗研究ノ作業ニ從事シ且特設設營隊指導工員ノ養成ヲ行フモノトス
- 第三條 海軍施設部設營班ニ班長及班員ヲ置ク
班長及班員ハ部長之ヲ命ズ
- 第四條 班長ハ部長ノ命ヲ承ケ班務ヲ掌理ス
- 第五條 班員ハ班長ノ命ヲ承ケ服務ス
- 第六條 班長及班員ハ當該海軍施設部ノ者ヲ以テ之ニ充ツ共ノ人員左ノ如シ

内令

一七〇九

1882

内令

同	班	班
軍	員	長
屬	技	技
	手	術
		科
		佐
		尉
		官

千人以内 (舞鶴海軍施設部ニ在リテハ五百人以内)	四人 (舞鶴海軍施設部ニ在リテハ各三人)	一人
-----------------------------	-------------------------	----

一七二〇

1883

内令
要
登
載

内令第七百六號

昭和十八年内令第七百七十五號掌電信兵(特)關係要員配置表ノ件中左ノ通改正ス

昭和十八年八月十九日

海軍大臣 嶋田繁太郎

別表中南西方面艦隊司令部乃至第五艦隊司令部及合計ノ各項ヲ夫々左ノ如ク改メ第十二航空艦隊司令部及幌筵通信隊ノ各項ヲ削ル

合 計	南西方面艦隊司令部		北東方面艦隊司令部		上海在勤海軍武官府		第五艦隊司令部	
	第三聯合通信隊司令部 第七十二、三、三十四通信隊 第十一特別根據地隊	幌筵通信隊 第十二航空艦隊司令部	一	二	一	二	一	二
三	四	二	一	一	一	一	一	一
一六	五		一					
三三	三		一					
一三	三		一					
一八〇	二〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
二〇二七	三〇	五	五	五	五	五	五	五
九〇	一〇							
二六五	三〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
一五三	四五							
二七二	三〇							
二二	一五							

○正誤

内令第七百六十七號(後送ス)一六一九頁ハ所要ノ向ニ配付ス

内 令

一七一一

1884

内令
要登載

内令
要登載

内令第七百七號

驅逐隊編制中左ノ通改定セラル

昭和十八年八月二十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第三十一驅逐隊ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

第三十二驅逐隊 涼波、藤波、早波

(内令提要卷一、六八頁参照)

内令第七百八號

潜水隊編制中左ノ通改定セラル

昭和十八年八月二十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第二十二潜水隊ノ項中「伊號第百八十」ノ下ニ「伊號第百八十一」ヲ加フ

第三十三潜水隊ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

内令

一七三

1885

内令

一七二四

第五十一潜水隊

呂號第百一、呂號第百二、呂號第百三、呂號第百四、呂號第百五、呂號第百六

(内令提要卷一、七〇頁参照)

内令第七百九號

吳鎮守府豫備潜水艦

伊號第百二十一潜水艦

伊號第百二十二潜水艦

右警備潜水艦卜定メラル

昭和十八年八月二十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

内令第七百十號

左ノ船舶ヲ特設艦船トシ其ノ種別及所管ヲ左ノ通定ム

昭和十八年八月二十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

内令
提
要
登
載

1886

内令提
要登載

船名	特設艦船種別	所管
漁船 第三寶松丸	特設監視艇	横須賀鎮守府

内令第七百十一號

特設監視艇隊編制中左ノ通改定セラル

昭和十八年八月二十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第二監視艇隊ノ項中「第拾光榮丸」ノ下ニ「第三寶松丸」ヲ加フ

(内令提要卷一、一四二ノ一〇頁参照)

内令

一七一五

1887

内令提
要登載

内令第七百十二號

海軍特別根據地隊ノ所管、名稱及所在地ノ件申左ノ通改正セラレ

昭和十八年八月二十日 海軍大臣 嶋田繁太郎

横須賀鎮守府

父島方面特別根據地隊

父島

ヲ

横須賀鎮守府

父島方面特別根據地隊

父島

ニ改ム

吳鎮守府

揚子江方面特別根據地隊

漢口

(内令提要卷一、三八ノ五頁参照)

内令提
要登載

内令第七百十三號

昭和十七年内令第四十二號海軍特別根據地隊職員表ノ件申左ノ通改正ス

昭和十八年八月二十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

内令

一七二七

1888

内令

一七一八

海軍特別根據地隊職員表其ノ十二ヲ別表ノ如ク定ム

(別表一葉添)

(内令提要卷一、四五二ノ二一頁参照)

内令第七百十四號

特設艦船部隊定員令申左ノ通改正セラル

昭和十八年八月二十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第三十二表ノ四特設警備隊定員表其ノ三 削除

(内令提要卷一、五六二ノ七頁参照)

内令第七百十五號

昭和十五年内令第八百八號海軍航空隊特別定員表等ノ件申左ノ通改正ス

昭和十八年八月二十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

内令
提要
要
登
載



内令
提要
要
登
載

1889

内令
要登載

海軍航空隊特別定員表其ノ十一ノ二ヲ別表ノ如ク改ム

海軍航空隊特別特修兵配置表中鹿兒島ノ項ヲ左ノ如ク改ム

鹿兒島	七五/一三
	一〇/二
	四/七
	四/五
	二四/七
	九/二
	三/二
	一〇/一
	三/二
	二
	九/三
	二/三
	三/四
	三/六
	五/九
	二/三
	二/三
	二/三
	三/四
	三/五
	一/三
	三/三
	七/三
	五/四
	〇

海軍航空隊特別教員配置表中鹿兒島ノ項ヲ左ノ如ク改ム

鹿兒島	三九二
	一一
	一一三
	一一
	六

(別表一葉添)

(内令提要卷一、四四八ノ三八頁参照)

内令第七百十六號

昭和九年内令第四百十六號別冊艦艇、特務艦艇機關使用限度標準表中別表ノ通改正ス

別表ハ海軍省軍務局長ヲシテ所要ノ向ニ之ヲ配付セシム

昭和十八年八月二十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

内令

一七一九

1890

内令

一七二〇

内令第七百十七號

十九日 陸軍省 第三三三

當分ノ間左ノ通人員ヲ臨時増置シ昭和十八年八月十六日ヨリ之ヲ適用ス

昭和十八年八月二十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第三特別根據地隊

大 中 尉(水) 隊附兼分隊長

二人

中少尉(水)、兵曹長 隊附

四人

兵 曹、水 兵

二百四人(特修兵適宜)

内令 要
登載

内令第七百十八號

昭和十八年内令第六百四十八號中「土浦海軍航空隊及三重海軍航空隊」ヲ「土浦海軍航空隊、三重海軍航空隊及鹿兒島海軍航空隊」ニ改ム

昭和十八年八月二十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

参照 前記内令ハ當分ノ間土浦海軍航空隊等ニ於テ教育スル飛行豫科練習生ノ員數ニ應ジ教官等ヲ増減スルノ件ナリ

1891

(別表)

海軍特別根據地隊職員表

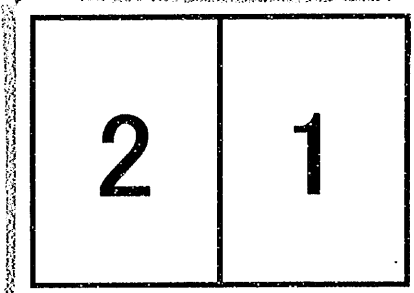
共ノ十二

(昭和十八年内令第七百十三號)

考 備	計		隊 附			隊 附										揚子江方面	揚子江方面			
	特	士	主計中少尉(主)	中少尉(工)	中少尉(機)	主計科尉官	軍醫科尉官	中少尉	少佐、大尉	少佐	主計中少佐	軍醫中少佐	中少佐	少佐、大尉	兵科佐尉官			大佐	大佐	司令官中少將
	七人	十六人 内兼務三人	一	一	四	一	一	三	二	一	一	一	一	一	二 内兼務一			一	兼務一	一
考 備	兵	下 士 官	准 士 官	主計兵	衛生兵	工兵	機兵	水兵	主計兵	衛生兵	工兵	機兵	整備兵	兵曹	主計兵曹長	衛生兵曹長	兵曹長	揚子江方面		
	四百三十六人	七十六人	七人	十六	六	四	六十	三百五十	四	二	一	十八	一	五十	一	一	五			

一 副長ハ參謀ノ、兼務參謀ハ副官ノ兼務トス
 二 中少尉、中少尉(水)及兵曹長ハ合計員數ノ範圍内ニテ彼此増減スルコトヲ得
 三 下士官及兵ハ合計員數ノ範圍内ニ於テ彼此増減シ又他科ノ下士官及兵ヲ以テ充ツルコトヲ得
 四 特修兵ハ適當トス

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3 版以上のため
文書等名	海軍航空隊特別定員表 その11の2
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

内令第七百十九號

昭和十八年内令第七百七十四號中「二十九人」ヲ「二十四人」ニ改ム

同年内令第七百四十八號中「平壤丸」ノ下ニ「安州丸」ヲ加フ

昭和十八年八月二十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

参照 昭和十八年内令第七百七十四號ハ横須賀鎮守府第一特別陸戰隊ノ人員臨時減員ノ件
同年内令第七百四十八號ハ特設砲艦第二號長安丸等ニ人員臨時増置ノ件

内令第七百二十號

當分ノ間左ノ通人員ヲ臨時増置ス

昭和十八年八月二十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

海軍艦政本部（官營製鐵所設立準備ニ充ツベキモノ）

大 佐 出仕 一人

大 中 佐、技 術 大 中 佐 出 仕 一 人（技 師（臨 時）ヲ以テ充ツルコトヲ得）

内 令

一七二一

1895

内令

一七三三

中 少 佐 出仕 一人
主計科佐尉官 出仕 一人

内令第千七百二十一號

當分ノ間左ノ通人員ヲ臨時増置ス

昭和十八年八月二十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第一五一海軍航空隊

整備兵曹、整備兵

十人(掌航空兵器兵(寫眞)七)

内令第千七百二十二號

當分ノ間左ノ通人員ヲ臨時増置ス

昭和十八年八月二十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

高雄海軍通信隊

主計兵 一人

1896

内令第七百二十三號

昭和十六年内令第四百八十八號中左ノ通改正ス

昭和十八年八月二十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

「大興丸」ノ下ニ「億洋丸」ヲ加フ

参照 前記内令ハ第二砲艦隊等ニ人員臨時増設ノ件ナリ

内令第七百二十四號

昭和十八年内令第四百九十八號中左ノ通改正ス

昭和十八年八月二十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

人員ヲ左ノ如ク改ム

兵 曹、水 兵 四十五人(掌砲兵 九、掌帆兵 九)

機關兵曹、機關兵 二十七人(掌内火兵 九)

内 令

一七二三

1897

内令第七百二十五號

當分ノ間左ノ通人員ヲ臨時増減ス

昭和十七年内令第三十九號^添 同年内令第二千二百二十九號^添 昭和十八年内令第二十四號^添 同年内

令第三百六十四號^添 同年内令第三百六十五號^添 及同年内令第三百二十三號ハ之ヲ廢止ス^添

昭和十八年八月二十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

増員

横須賀鎮守府

少 佐 出仕 一人(水産講習所配屬武官ニ充ツベキモノ)

横須賀第一海兵團

兵 曹 (教員) 二人(掌砲兵 高一) (水産講習所ニ充ツベキモノ)

減員

横須賀海軍砲術學校

少 佐 教官 一人

1898

兵 曹 (教員) 二人 (掌砲兵 高一)

昭和十七年内令第三十九號ハ横須賀第一海兵團等ニ人員臨時増置ノ件
同 年内令第二百二十九號ハ横須賀第一海兵團(第三期高等海員養成所ニ充ツベキモノ)等ニ人員臨時増置ノ件
昭和十八年内令第二十四號ハ大阪警備府ニ人員臨時増置ノ件
参照 同 年内令第三百六十四號ハ横須賀第一海兵團(清水高等商船學校指導官附ニ充ツベキモノ)ニ人員臨時増置ノ件
同 年内令第三百六十五號ハ横須賀鎮守府(清水高等商船學校指導官ニ充ツベキモノ)ニ人員臨時増置ノ件
同 年内令第三百二十三號ハ吳海兵團(大島商船學校ニ派遣スベキモノ)ニ人員臨時増置ノ件

内令第七百二十六號

當分ノ間左ノ通人旨ヲ臨時増置ス

昭和十八年八月二十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

横須賀鎮守府

少佐、大尉	出仕	三人
兵科尉官	出仕	三人
大中佐	出仕	二人
少佐、大尉	出仕	七人

(東京高等商船學校配屬武官ニ充ツベキモノ)

(清水高等商船學校配屬武官ニ充ツベキモノ)

内令

一七二五

1899

内令

一七二六

兵科尉官	出仕	九人	
軍醫科尉官	出仕	一人	
兵科尉官	出任	二人	(一人ハ鳥羽商船學校配屬武官ニ充ツベキモノ 一人ハ第三短期高等海員養成所配屬武官ニ充ツベキモノ)
吳鎮守府			
少佐、大尉	出仕	三人	(神戸高等商船學校配屬武官ニ充ツベキモノ)
兵科尉官	出仕	三人	
兵科尉官	出仕	七人	(大島、廣島、粟島、弓削商船學校配屬武官 各一 第一、第二、第四短期高等海員養成所配屬武官 各二)
佐世保鎮守府			
兵科尉官	出仕	一人	(鹿兒島商船學校配屬武官ニ充ツベキモノ)
舞鶴鎮守府			
兵科尉官	出仕	一人	(富山商船學校配屬武官ニ充ツベキモノ)
大阪警備府			
兵科佐尉官	附	一人	(大阪特別高等海員養成所及大阪高等 海員養成所配屬武官ニ充ツベキモノ)
鎮海警備府			

1900

特務士官(水)	附	一人(鎮海高等海員養成所配屬武官ニ充ツベキモノ)
横須賀第一海兵團		
兵	曹	二人(掌砲兵高)(東京高等商船學校ニ充ツベキモノ)
兵	曹	八人
機關兵	曹	四人(特修兵適宜)(清水高等商船學校ニ充ツベキモノ)
衛生兵	曹	一人
兵	曹	一人(鳥羽商船學校ニ充ツベキモノ)
兵	曹	二人(掌砲兵高)(第三短期高等海員養成所ニ充ツベキモノ)
兵	曹	二人(掌砲兵高)(<small>一人ハ小樽海員養成所ニ充ツベキモノ 一人ハ宮古海員養成所ニ充ツベキモノ</small>)
吳海兵團		
兵	曹	二人(掌砲兵高)(神戸高等商船學校ニ充ツベキモノ)
兵	曹	二人(掌砲兵高)(大島商船學校ニ充ツベキモノ)
兵	曹	三人(掌砲兵高)(廣島、粟島、弓削商船學校ニ充ツベキモノ 各一)

内令

一七二七

1901

兵	曹長	(教員)	一人	(大阪高等海員養成所ニ充ツベキモノ)
兵	曹	(教員)	一人	
兵	曹	(教員)	二人	(掌砲兵 一) (第一短期高等海員養成所ニ充ツベキモノ)
兵	曹	(教員)	二人	(第二短期高等海員養成所ニ充ツベキモノ)
兵	曹	(教員)	二人	(掌砲兵 一) (第四短期高等海員養成所ニ充ツベキモノ)
兵	曹	(教員)	一人	(兒島海員養成所ニ充ツベキモノ)
中少尉	(水)	附兼教官	一人	
兵	曹	(教員)	二人	(掌砲兵 一) (大阪普通海員養成所ニ充ツベキモノ)
佐世保第一海兵團				
兵	曹	(教員)	一人	(掌砲兵) (鹿兒島商船學校ニ充ツベキモノ)
兵	曹	(教員)	一人	(掌砲兵) (唐津海員養成所ニ充ツベキモノ)
中少尉	(水)	附兼教官	一人	
兵	曹	(教員)	一人	(掌砲兵) (宮崎海員養成所ニ充ツベキモノ)
舞鶴海兵團				

1902

<p>中少尉(水) 附兼教官 一人 兵 曹 (教員) 一人(掌信號兵) 兵 曹 (教員) 一人(掌砲兵)(富山商船學校ニ充ツベキモノ)</p> <p>(七尾海員養成所ニ充ツベキモノ)</p>	<p>内令第七百二十七號 當分ノ間左ノ通人員ヲ臨時増置ス 昭和十八年八月二十日</p> <p>海軍大臣 嶋田繁太郎</p> <p>軍艦飛鷹、隼鷹</p> <p>機關兵曹、機關兵 四人(掌電機兵) <small>(發電機 高普)</small></p>	<p>内令第七百二十八號 救難船兼曳船第五吳配屬中左ノ通人員ヲ臨時増置ス 昭和十二年内令第三百四十八號及昭和十七年内令第千九十八號ハ之ヲ廢止ス</p>
---	--	---

内令

一七二九

1903

内令

一七三〇

昭和十八年八月二十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

横須賀海軍港務部

兵 曹、水 兵

五人(掌帆兵 應 高 普)

機關兵曹、機關兵

三人(掌機兵 主機 高 普)

参照 昭和十二年内令第三百四十八號ハ吳海軍港務部ニ人員臨時増置ノ件
昭和十七年内令第千九百九十八號ハ第十一特別工作部(救護船兼曳船第五吳ノ乗員ニ充ツベキモノ)ニ人員臨時増置ノ件

内令第千七百二十九號

昭和十八年内令第千二十三號中左ノ通改正ス

昭和十八年八月二十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

人員及備考ヲ左ノ如ク改ム

大 中 佐 分遣隊長 一人

1904

内令

中少尉(整)、整備兵曹長	中少尉(飛)、飛行兵曹長	中少尉(水)、兵曹長	主計科尉官	主計中少佐	軍醫科尉官	軍醫少佐、軍醫大尉	兵科尉官	少佐、大尉	中少佐	中佐
(教附兼教官 具)	(教附兼教官 具)	(教附兼教官 具)	隊附	分隊長	隊附	分隊長	隊附兼教官	隊附兼教官 教官兼分隊長	分隊長兼教官	教官
十八人	二人	三人	一人	一人	一人	一人	一人	六人	一人	一人

一七三一

1905

中少尉(機)、機關兵曹長	隊附兼教官 (教員)	三人
中少尉(工)、工作兵曹長	隊附兼教官 (教員)	二人
衛生中少尉、衛生兵曹長	隊附	一人
主計中少尉(主)、主計兵曹長	隊附	二人
兵曹、水兵		五十八人 <small>掌砲兵(高) 一 掌帆兵(高) 一 掌測的兵(高) 一 掌信號兵(高) 二 掌電信兵(高) 三</small>
飛行兵曹		九人 (掌飛行兵(操) 五、偵 四)
整備兵曹、整備兵		二百九十人 <small>掌整備兵(高) 三 掌航空兵器兵(高) 九 射爆(高) 六 寫真(高) 六 掌電信兵(高) 六</small>
機關兵曹、機關兵		五十二人 <small>掌機兵(高) 一 主機(高) 一 掌電信兵(高) 六 掌內火兵(高) 三</small>

1906

工作兵曹、工作兵

三十一人

鍛冶〔普高〕
航空板金〔普高〕
鑄造〔普高〕
機械〔高〕
航空接〔高〕
木工〔普高〕
仕上〔高〕
一三

衛生兵曹、衛生兵

十人

主計兵曹、主計兵

四十二人

掌櫃兵〔普高〕
掌櫃兵〔普高〕
掌櫃兵〔普高〕
六二五三

備考 兵曹四人、飛行兵曹九人、整備兵曹九十五人、機關兵曹六人及工作兵曹十六人ハ教員ニ充ツ

参照 前記内令ハ當分ノ間道濱海軍航空隊（知多分遣隊職員ニ充ツベキモノ）ニ人員臨時増置ノ件ナリ

内令第七百三十號

當分ノ間左ノ通人員ヲ臨時増置ス

昭和十八年八月二十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

内令

一七三三

1907

内令

一七三四

鎮海海軍港務部

書 記 附 臨時一人

内令第七百三十一號

昭和十七年内令第七百二十六號中左ノ通改正ス

昭和十八年八月二十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

「書記 附 臨時一人」ヲ「書記 附 臨時二人」ニ改ム

参照 前記内令ハ第四海軍軍需部等ニ人員臨時増設ノ件ナリ

1908

内令
要
帶
載

内令第七百三十二號

昭和十八年内令第五百八十四號別表中左ノ通改正ス

昭和十八年八月二十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

吳鎮守府ノ部佐伯防備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第三十七號」ノ次ニ「第四十號」ヲ加フ

参照 前記内令ハ特務艇ノ本籍及所屬ノ件ナリ

内令

一七三五

1909

内令提
分機

千七百三十二號 (後送ス) 済

内令第千七百三十三號

昭和十五年内令第五百二十七號中左ノ通改正ス

昭和十八年八月二十三日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第三號中後席ノ項職務分擔ノ欄「機上整備」ヲ「機上整備、射撃」ニ改メ記事ノ欄ニ左ノ二號ヲ加
フ

四、前號ノ場合ニ於テハ情況ニ應ジ搭乘整備者ヲシテ操縦補助ノ職務ヲ分擔セシムルコトヲ得

五、當分ノ間電信席偵察者一ヲ減ズルコトヲ得

参照 昭和十五年内令第五百二十七號ハ航空機搭乗者配員標準ノ件ナリ(内令提要卷一、一四〇ノ六頁)

内令

一七三七

1910